

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家(A棟)		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初音140-1		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171000645&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が介護福祉士の資格を取得しスキルアップを図ることで質の高い介護が提供できている。現在は16名の職員のうち13名が介護福祉士の資格を、また4名がケアマネジャーの資格を、そして3名が看護師の資格を有している。地域との交流にも力を入れており、幼稚園児の訪問・地域ボランティアの数も増えてきている。また、年2回消防職員立会いのもと避難訓練を行い、災害時にも迅速に対応できる体制をつくっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域と密接に関わりながら、地域に根差したホーム運営が行われている。開設以来、地域の赤十字奉仕団からの傾聴ボランティアが、毎週金曜日に訪れ、利用者の気持ちに寄り添う活動が続けられている。また、寺の住職が「法話」に毎月訪れ、利用者の心を癒している。幼稚園児や中学生の「お雛クラブ」も定期的に訪れ、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。職員は、資格保持者で構成されており、さらに高い目標を目指して自己研鑽に努めている。そして、専門職としての自覚を持ち、地域との関係を大切にしながら、利用者が喜びと誇りを持って生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごすための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	地域社会の一員としての生活を支えることを含め、6項目の理念を掲げている。理念は、定例の全体会議で、共有している。本人の意思を尊重し、その人らしく安心のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃をお手伝いしたり、祭りには準備段階から参加しており、地域からもホームの玄関に祭りあんどんや飾りをして頂く等、日常的に交流している。またホームの避難訓練にも地域からの参加協力を頂いている。	自治会に加入し、地域と緊密に交流している。幼稚園児や中学生が訪れ、ゲームを楽しんでいる。傾聴ボランティアは、開設以来、毎週1回の訪問を継続している。近隣からは、災害時の協力を得られる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会から依頼を受け、一般の人を対象にした認知症を理解して頂くための講演を行ったり、事業所見学会を行う等の活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。	会議は、行政・自治会長・組長・自治会員・家族が参加し、2ヶ月ごとに開催している。運営報告の後、意見交換をしている。災害対策や感染予防などが検討され、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また認定更新の機会には市町村担当者に生活状況を伝え、連携を深めている。	運営推進会議に出席した市の担当者に、運営状況を報告している。市の介護相談員が毎月訪れ、利用者の思いを聞いている。家族のトラブルを抱えた問題でも相談し、助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に入出入りできるようになっている。	身体拘束となるような行為は行わないケアを実践している。玄関の鍵は開放し、利用者が自由に出入りしている。	身体拘束や虐待の具体的な行為について、継続的な学習を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止についてミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見が必要なケースでは、これまで管理者が対応して来たため他の職員は理解が浅い。過去に研修には参加しているが、経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加して頂き、全体的な話し合いや個別的な話し合いができるように心掛けており、要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。	家族の面会時や運営推進会議、電話でも意見を聞いている。飲みやすい薬の加工や睡眠の確保についての要望がある。意見・要望等は、職員会議で話し合い、改善に反映している。	家族の意見は、口頭での対応が多いため、正確に記録を残すことが望ましい。さらに、家族の意見を引き出すような職員間での意識づけにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日頃からコミュニケーションにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	管理者は、毎月の定例会議で職員の意見を聞いている。ケア事例の報告、危険物の管理、消毒方法の統一について検討している。意見・提案等は、速やかに運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や資格手当など各自が向上心を持てるよう職場条件の設備に努めているが、収入に限界があり昇給等難しくなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、現在職員の体制にゆとりがなく研修に行けないのが実状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には施設内を見学して頂いている。また、事前に本人と面会し、状態・希望を聞くことで信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時に施設内の見学をして頂いている。また、要望・希望をお聞きしその要望に添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で、本人や家族の思い・意見を聞かせて頂き、介護職員・看護師・ケアマネが話し合い、まず必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に作業をしたり会話をしたりする中で、互いに関われる時間を大切にしながら安心して共に生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態・様子を月1回のお便りで報告している。本人からの希望、本人に変化があった時や伝えたいことがあるときは電話で連絡をとっている。面会・外出等無理のない範囲で姉害している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人が面会に来て下さる利用者には、居室でゆっくり一緒に過ごして頂いている。また、家族の了承のもと友人と外出される利用者もみえます。出来る限り馴染みの関係が途切れないよう支援している。	友人・知人の面会が多く、ゆっくり話し合う場を支援している。ドライブでは、馴染みの城下町を巡るのが喜ばれている。また、馴染みの美容院、喫茶店、自宅等へは、家族と共に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の昔からの人間関係、現在の性格・嗜好・特技・互いの相性など把握に努め、より良い関係が保て、互いに楽しく生活できるよう職員が関わりながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次の住居(サービス)への情報提供(サマリー、TEL連絡)など行っている。また、契約終了後も他施設や病院等から依頼があればご本人に対する相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望や意向に添えるよう努めている。困難な場合は、職員間で話し合い家族にも相談や協力をお願いしている。	日常の会話や表情・動作から思いを把握している。不穏な状態には、個々に特徴があり、見逃さないように努めている。把握の困難な人は、家族の協力を得ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の今までの暮らしや楽しみなどを、本人や家族から話を聞き情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から個々のできる力を見極め、月1回のカンファレンスで話し合い、一人ひとりの残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望を最大限に取り入れることができるようカンファレンスで話し合い、現在の状態に合ったケアプランになるよう努めている。	毎月、本人の状態を全職員でモニタリングしている。介護計画は、本人・家族の希望を取り入れ、作成している。状態に変化があれば、医師、看護師など関係者と話し合い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケア実践を介護記録に残し、職員間で共有しながらケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、本人・家族の希望に添えるよう職員間で話し合い柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・話し相手・遊び相手ボランティア・音楽療法ボランティア等各種ボランティア、介護相談員、保育園児の訪問等、地域住民の方達の参加もいただき支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を聞き、本人・家族の希望を確認し主治医を決め、受診時には本人の情報を文章にして提供している。	利用開始時に、本人・家族の希望を確認し、協力医を、かかりつけ医に変更している。月に2回、協力医の往診があり、看護職員と緊密に連携を取り、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2ユニット3人配置しており、夜間帯も待機体制をとることで利用者の健康管理や状態変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時は、利用者の日常生活や病状の情報を提供している。また、病院とバラの家のケアマネが情報交換したり、退院が近づいてきたら試験外泊するなど、早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医と相談し本人・家族とも繰り返し話し合い終末期に向けた方針を決めている。又職員全員が方針を共有するため、連絡連携を密にしてより良い情報が提供できるようミーティングで話し合ったり、勉強会もおこなっている。	重度化・終末期に向けた方針を定めている。常時医療が必要になれば、病院や他の機関に移転することとし、看取りは行わない。家族とは段階的に話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応で連絡できるよう全職員に指示し医療連携体制を取っており事後にはヒヤリハット・事故報告内容を精査し改善策を検討している。又急変時や事故に対するマニュアルを作り、初期対応に備えてAEDの講習を受けたり、対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練を通して利用者の現状の状態に応じた避難方法を職員が確認している。また、地域防災の訓練にも参加している。	消防署と地域住民の協力のもと、年に2回避難誘導訓練を行っている。また、地域合同の防災訓練には、職員が毎年参加している。行政とは、災害時の地域の福祉支援拠点として協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや受容の気持ちで対応するよう努めている。	個々の人格や生活歴を尊重し、誇りを損ねない言葉かけを徹底している。本人が安心して、落ち着くことができるように、受容の気持ちで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とコミュニケーションを取る中で思いや希望を聞き出し、本人の思いを尊重して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を考慮しつつ、できる限り一人ひとりのペースで過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい利用者には、職員が自己決定しやすい声掛けをしている。3ヶ月ごとに美容師が来所され散髪をして頂いている。また、行きつけの美容院へ行かれる利用者には、家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週4回利用者と献立て作りについて話し合い、利用者の希望に沿った献立てを立て、一緒に調理するようにしている。また、配膳や片付けも一緒に行っている。	毎週、木・日曜日の朝食と夕食は、職員と利用者が、一緒に、献立づくりから行う調理の日と定め、実施している。食材の買出しから下準備、配膳や片付けも楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え管理栄養士や調理師が関わっている。また、食事摂取量を把握し変化があった場合は、医師や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行う際職員は、本人がどこまで出来るか理解した上で、個々に適した口腔ケアや清潔保持が出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の自立力に合わせた声かけや見守り、必要に応じて介助をしたり排泄チェックをして間隔を確認しながら、気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよくトイレで排泄できるように、声かけや見守りにより自立を支援している。夜間、数人の人が、ポータブルトイレを使用している。一人ひとりのサインをよく把握して、失敗の少ない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を随時行っており必要に応じて飲食物にオリゴ糖を入れたり、毎日牛乳・ヤクルトなども飲んで貰っている。また医師の指示による服薬コントロールも必要に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴をしていただいている。ローテーションを組んで平等性を確保する事で順番でのトラブルがないように配慮している。また入浴を拒否される利用者にタイミングを計りながら声かけを行っている。	週3回の入浴日がある。順番のこだわりや拒否の人には、気持ちを受け入れ、タイミングを見ながら柔軟に対応している。入浴中は介助の職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体調に合わせて室温に気をつけて一人ひとりが必要な休息や睡眠をとれるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が保管庫で管理しており、1日分をセットし職員が確認し、利用者一人ひとりに手渡しと再度確認をして服用して頂いている。一人ひとりが服用している薬の目的や副作用などケースで確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりにあった役割や楽しみ、気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物を楽しんで頂いたり、外での行事では家族の協力を得ながら安全に外出できるように心掛けている。外出時に転倒のリスクの高い人は車椅子を使用したり職員による見守りや介助を行っている。	広い庭を出て、ホーム周辺を散歩している。買い物や町並みのドライブも楽しんでいる。季節の行事として、桜・ぼたん園・芝桜の群生地などの名所へ、職員と共に出かけている。	

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で管理している。本人の希望があった場合、買物や外出などでお金を所持し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間に電話があり本人が希望されるときは、いつでも電話がかけられるよう支援している。また、贈り物や手紙が届いたとき等は、御礼の電話を掛けて頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れたちぎり絵を毎月居間に飾ったり、花を飾ったりして楽しんで頂いている。また、イベントや行事で撮った写真を飾ったり、利用者の作品なども飾ったりと居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者と共同で作成した、ちぎり絵の大作を共用の場に飾り、季節ごとに入れ替えている。自作の俳句やぬり絵、記念写真なども廊下に飾り、生活感を採り入れている。利用者は、木造作りの落ち着いた空間の中で、自分のペースでゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳部屋やソファがあり、気の合った利用者同士が少人数で会話を楽しめるよう工夫したり、個々で思い思い過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人が作った作品、花を飾ったりして落ち着いて生活して頂ける居室作りを心がけている。また、本人の状況により家族と相談しながら馴染みの家具を持ち込んだりして本人好みの居室作りが出来るよう支援している。	表札は、はり絵と組み合わせた個性的な字体で作られている。その横に、本人の写真を、手づくりの額縁に入れて掲げている。居室には、収納ケース・家族の写真・小型の机や椅子など、馴染みの物を揃えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、廊下、トイレや風呂場などには手すりが設置されており安全に移動できる構造となっている。また、必要に応じて押し車をしようして頂き、転倒予防に努めている。居室のドアには名札や絵を貼り、自分の部屋を分りやすくする等して自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家(B棟)		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初音140-1		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年9月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃をお手伝いしたり、祭りには準備段階から参加しており、地域からもホームの玄関に祭りあんどんや飾りをして頂く等、日常的に交流している。またホームの避難訓練にも地域からの参加協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会から依頼を受け、一般の人を対象にした認知症を理解して頂くための講演を行ったり、事業所見学会を行う等の活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また認定更新の機会には市町村担当者に生活状況を伝え、連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に入出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止についてミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見が必要なケースではこれまで管理者が対応してきたため他の職員は理解が浅い。研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加をして頂き、全体的な話し合いや個別的な話し合いができるように心掛けており、要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日頃からコミュニケーションにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や資格手当など各自が向上心を持てるよう職場条件の設備に努めているが、収入に限界があり昇給等難しくなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、職員が不足しているため研修に行く機会が少なくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設内を見学して頂き、面接時には本人の状態・希望・訴えなどを聞いて、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時に家族と話し合うことで、今困っていることや要望・希望を聞き、その要望に添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で、本人や家族の思い・意見を聞いて、ミーティングを行い情報共有・対応策等検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と関わる時間を作り、会話することで信頼関係を少しでも築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子・訴えなどを月1回のお便りで報告している。また、無理の無い程度に面会・外出をお願いしたりと家族の絆が途切れないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人が面会に来て下さる利用者とそうでない利用者があり、出来る限り入所前の馴染みの関係が途切れないよう継続して保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やお茶・掃除・洗濯など役割分担し、一緒に活動を行うことで利用者同士のより良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次の住居(サービス)への情報提供(サマリー、TEL連絡)など行っている。また、契約終了後も他施設や病院等から依頼があれば本人に対する相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や行動を日常から観察し、本人の希望や意向に添えるよう努めている。困難な場合は職員間で話し合ったり、家族に相談や協力をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や本人から話を聞いて情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活から本人の有する能力を観察し、カンファレンスで検討し残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで本人の課題、ケア方法など検討している。また、本人や家族の希望・要望に添った介護計画になるよう努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・実践・職員のアイデア結果など介護記録に残している。職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人そして家族の希望に添えるよう職員間で話し合い柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)・保育園児の訪問等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を聞き、本人や家族の希望を確認しかかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を2ユニットで3名配置しており、夜間帯も待機体制を取ること、常に利用者の健康管理・体調の変化に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、安心して医療が受けられるように、病院関係者との情報交換を行い、本人や家族に安心できる環境を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医と相談し本人・家族と話し合いをしながら終末期に向けた方針を決めている。又、職員も方針を共有しながら支援していくように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、常に主治医や看護師への速やかな連絡がとれるよう医療連携体制を取っている。職員がAEDの講習を受けたり、マニュアルに基づき初期対応の方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員・地域住民協力のもと避難訓練を行っている。職員全員にマニュアルを配布して、夜間想定火災訓練・地震による避難訓練を行っている。利用者の状態によって避難の方法・避難経路を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊い常に感謝と受容の気持ちで接するよう心掛けている。記録等個人情報はプライバシーを損なわないようイニシャルを使用するなどの気配りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位に努めコミュニケーションを取る中で利用者の思いや希望を聞き出し自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活がパターン化した流れになっているが、出来る限り利用者の希望を大切に一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣服は個々に選んで頂いている。3ヶ月に1回美容院より来て頂き整髪を受けている。馴染みの理容院を希望される利用者は家族に同行して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週4回利用者の好みや希望に合わせた献立を立て利用者と一緒に調理を行っている。昼食は職員も一緒にテーブルに付き会話をしながら食事している。配膳や片づけも利用者と職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、食事摂取量を把握し変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態を把握し、朝・夕の義歯洗浄やうがい等口腔内の清潔保持が出来るよう個々の力に応じた支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に合わせた声掛けや誘導を行っている。排泄の間隔を確認したり、尿意・便意を読み取ることで失敗が少なくなるよう努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と適度な運動や体操をする事で腸を動かすようにしている。また、排便コントロールの困難な利用者に対してはオリゴ糖を使用したり主治医の指示により服薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	トラブルがないようローテーションを組み、週3回入浴して頂いています。入浴を拒否される利用者には、時間をずらしたり翌日にしたりと利用者の希望に添った時間に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に気を配りながら、それぞれの体調や生活リズムに合わせて休息や睡眠をとっていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を再確認し、飲み間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント(生活歴・経験等)の中から、その人にあった役割や楽しみ・気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買物・喫茶店・地域のイベント等職員と出かけている。行事によっては、家族の協力をえたり、転倒のリスクの高い利用者には職員の配置など話し合った上で安全に外出できるように対策している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭は事務所で管理している。職員と一緒に買物や外出するときは、出来る人には本人に支払いを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間に電話があり、本人が希望されればいつでも電話を掛けていただけるよう支援している。また、贈り物や手紙が届いた時はお礼の電話を掛けて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂の壁には、利用者と一緒に作成した季節の作品を飾っています。また、個人作品は居室前に飾り楽しんでみえます。掲示板に行事の様子の写真・次回の行事のお知らせを貼ることによって、楽しみに待って頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっています。居間にもソファがあり、気の合う利用者同士で話したり、歌を唄ったりして過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人が描かれた塗り絵・作品を飾ったりされている。本人のお気に入りのタンスを使用されてみえる利用者もみえます。家具は、本人の状態により家族と相談しながら設置・配置するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下や浴室、トイレには手すりが設置されており安全に移動できる構造となっている。また、トイレ・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		